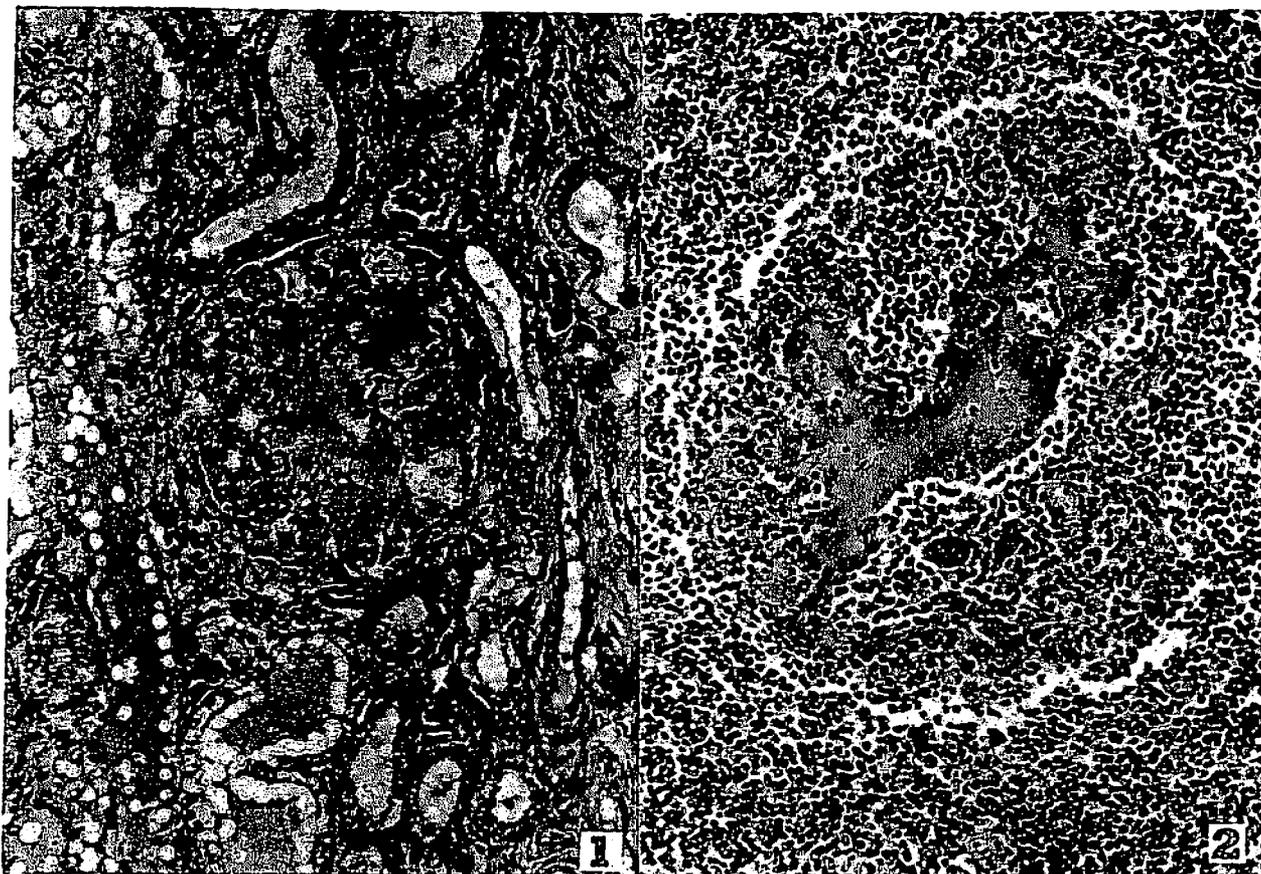


犬の腎と脾

麻布獣医科大学出題 第18回獣医病理学研修会標本No.280



Scotch terrier, ♂, 13才, 毛色: 黒, 体重: 13kg,

臨床的事項: 屋内飼育, 行動不活発で数年来の慢性皮膚炎があり, くり返しプレドニンを筋注。8才まで, 定期的に砒素剤静注により犬糸状虫を駆虫。以前より, 片側性に大白歯の慢性歯槽骨膜炎があった。2日前から嘔吐激しく, 元氣・食欲消失, 皮毛粗剛, 歩様不安定で軽度の心雑音を聴取。可視粘膜に異常なく排糞は正常。

肉眼所見: 脾は, やや硬化, 剖面貧血様で円形~不整形の太小白斑がある他, 所々に陳旧な出血巣も認められる。消化管には, 著変を認めず, 膵小葉は, 大小不同, 肝はニクズク様で出血斑・黄色斑が散在。胆嚢は, 高度に膨満し大量の軟砂粒状結石と粘稠な胆汁を含む。腎は, 左右とも表面顆粒状を呈し, 皮質は, 黄色調強く, 髓質に鬱血が見られる。副腎は, やや大きく, 片側性に皮質の腫瘍を認める。左心室尖部付近に, 直径3mmほどの心臓瘤があり, 僧帽弁の肥厚, 心室中隔部及び左心室壁に, 梗塞様癒痕が観察される。

組織所見: 腎糸球体には, 写真1に見られるようなエオジン好性硝子様物が, 毛細血管周囲に沈着している。ボーマン腔, 細尿管には, 蛋白質の貯留が見られ, 細尿管

内腔及び, 細尿管上皮・ボーマン囊外葉基底膜下に, 石灰沈着の見られる部分もある。間質には, 小円形細胞浸潤を認める。脾臓は, 白脾髄, 赤脾髄の区別が明確にはつかず, 写真2に見るように, 主に, 白脾髄と思われる部分に高度のエオジン好性硝子様沈着物が, 見られる。PTAH染色で, 腎糸球体の沈着物は帯黄褐色に染まりフィブリノイドの沈着を伴うものもある。脾でも, 沈着物は帯黄褐色に染まり, 白脾髄と思われる部分では, フィブリノイドの沈着を伴うものが, 多く見られた, 糸球体, 脾の沈着物は, クリスタル・バイオレット染色により, 赤紫色を呈した。コンゴレッド染色で, 腎糸球体沈着物は, 淡赤色に染まり, 緑色偏光を観察できた。脾では, 小血管壁の沈着物は, 淡赤色に染め出されたが, 白脾髄, 脾洞壁に見られたものは, 染まりにくかった。10%ホルマリン固定材料から切り出し, エタノール脱水エポキシ包埋の後, 電子顕微鏡で観察し, 腎, 脾ともに, 沈着部位に, 巾約100Åのフィラメントの集団を観察した。以上の結果を考え合わせて, 『犬の腎と脾のアミロイドーシス』であると診断した。